

夢を追う卒業生 その4 平成30年9月10日

“とりあえずやってみる“の楽しさ、大切さ

◇今回は、加藤茉莉さん（関西学院大学国際学部）のレポートです！

自己紹介

2013年 関高校入学

2014年-2015年 カナダ留学

2017年 関高校卒業

2017年 関西学院大学国際学部入学

2018年8月～現在 フィンランド留学

モイモイ！ 昨夜ストックホルム旅行からフィンランドに戻ってきました関西学院大学国際学部2年生の加藤茉莉です。自己紹介にも書いたように、私は現在、半年間のフィンランド留学に来ています。というのも、私の学部は留学が必修条件となっており、在学中に全ての学生が交換留学やボランティア活動を始めた海外での中長期滞在を経験します。私の場合、教育と社会福祉の分野が進んでいる北欧諸国に一度は住んでみたい！と前から思っており、今回の留学が実現しました。



ノーベル賞の晩餐会が行われるストックホルム市庁舎からの景色。

関学の国際学部を選んだきっかけは4年前に遡ります。高校2年生の6月、カッコ良く言えば「視野を広げたい！」という思いから、単純には「担任の先生の影響」で1年間カナダの公立高校に留学しました。カナダ人はもちろん、そこで出会った世界各国からの留学生と過ごす中で、自分の価値観を良い意味で覆されました。1年間のカナダ留学を終えて、ひとつの分野にとらわれず、好きな分野をまんべんなく学べる点、もう一度海外にどうしても行きたかったのが留学が必修である点、この2点がそろった現在の大学、学部への進学を決めました。

大学に入学してからは高校時代にはできなかった様々なことに参加しました。関学に来たばかりの外国人留学生を対象とした「日本語パートナー」では、中国人の子のパートナーとなり、半年間お昼ごはんを一緒に食べたり、出かけたりしました。

恥ずかしながら、彼女に会う前までは”中国人”を一括りで捉えていました。しかし、彼女自身の言葉で中国に対する思いを聞く中で、私の中で変化がありました。彼女のように自分の意見をしっかり持つようになりたいとも思いました。また、大晦日とお正月に関市の私の実家へ一緒に帰省し、ともに過ごしたのも良い思い出です。私の祖父と彼女が仏教の歴史について熱く語り合っていた姿は、何とも言えないほっこりした気持ちになりました。卒業までに彼女に会いに中国に行く予定です。

大学1年生の春休みには、自分自身の途上国での経験を増やしたいと考え、学校のプログラムを通してベトナムに10日間のフィールドワーク研修に参加しました。高校3年生の卒業間際にフィリピンのスラム街を訪れ、日本との違いに衝撃を受けたことをきっかけに、他の東南アジア諸国の実情をもっと知りたいと思うようになりました（フィリピン滞在中、不運にもデング熱にかかったので、皆さんお気をつけてください笑）。ハノイは私の想像を遥かに超えた発展した街で、建設中の建物や人々の活気あふれる姿から、ベトナムは成長段階の真ただ中にあると感じました。ベトナム人学生と交流する中で、日本国内には知りえないベトナム人の姿を垣間見ることができました。彼らの勤勉な姿勢から、自分も負けられないと刺激を受けました。そして、このフィールドワークを通して志の高い日本人メンバーとも深い関係を築くことができ、これからも高めあえる関係でいたいと強く感じています。

フィールドワークから帰国して3日後には、ミャンマー→タイ→カンボジア→ベトナム→ラオスの、題して“3週間東南アジア5か国バックパッカーの旅”に出発していました。何しろ貧乏旅行だったため、朝食付き1泊300円のゲストハウスに泊まったり、少しでも安くしようと値引き交渉を重ねすぎてタクシーのおじさんに呆れられたりしました。が、そのおかげでより現地の人の暮らしぶりを間近で感じることができ、東南アジアの歴史や文化に更に興味を持つようになりました。



バンコクのチャイナタウンにて。

関学での授業は、国際学部に加え、副専攻として、「国連・外交プログラム」を受講しています。このプログラムは、将来、国連・国際機関や外交官として世界の公共の場で活躍するリーダーの養成を目的

としており、国連・外交について体系的に学び、指定された単位数を修得した学生には卒業時に修了証書が授与されます。現段階では興味のある分野が多く、卒業後の進路については模索中ですが、国連や外交官としての経験豊富な先生方から教わることのできるこのプログラムはとても有意義だと感じます。

最後に

脈略のない文章となってしまいましたが、以上が主な私の大学生活です。どれも始める前は大きな決断をしたわけではなく、“とりあえずやってみる”といった程度でした。しかし、この” とりあえずやってみる “の精神は想像以上の楽しさと、経験を与えてくれました。残りの学生生活も、引き続き色々なことに飛び込んでみたいです。

私は関高時代、成績面でお世辞にも優秀な生徒ではありませんでした。毎日のように職員室に駆け込んで数学の問題を解説してもらっていたのを今でも覚えています(先生方には大変お世話になりました笑)。日々の小テストや期末テストに追われる毎日は決して楽しいものではないかもしれませんが、そんな時は大学生になった自分を想像してみてください。この文章が、少しでも皆さんの「大学生の生活」のイメージを膨らませるものになれば幸いです。